

途上国援助へ理解を

六戸でボランティア貯金などの活動状況報告会

松山医師(AMD A 会 員)も支援訴え

「国際協力の日」の六日、上北郡六戸町で「国際ボランティア貯金・NGO活動状況報告会」が開かれ、同貯金の普及状況が説明されたほか、アジア医師連絡協議会(AMD A)会員として活動している町立六戸病院の松山淳医師(三)が同協議会の活動状況を

報告した。

国際ボランティア貯金は普通郵便貯金の利子の二〇%を寄付してもらい、NGO(民間海外援助団体)を通じて開発途上国の福祉向上に役立てるもの。六日は「国際ボランティア貯金の日」でもある。

六日午後五時から旅館な

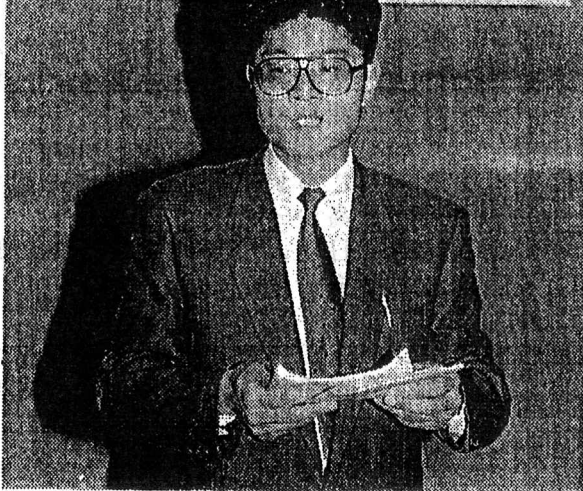
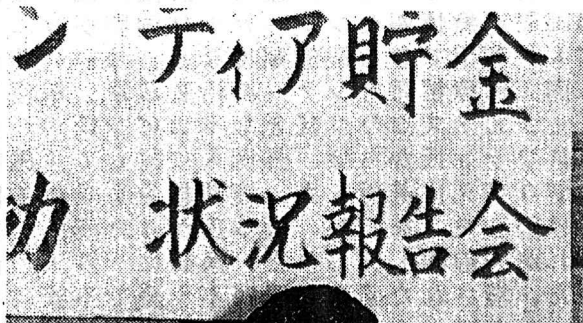
かで開かれた報告会では、吉田輝明六戸郵便局長、町の同貯金推進協議会長の苦米地繁雄町長が「ボランティアの輪を一段と広げよう」とあいさつ。次いで、貯金の普及状況の説明、タイにおいて援助金

がいかに現地住民の自立活動を支えているかを紹介するビデオが上映され、参加者は同貯金に対する理解を深めた。

このあと、松山医師がAMD

DAについて報告。それによると、AMD Aは昭和五十四年にタイのクオイタンにあるカンボジア難民キャンプに駆けつけた一人の医師と二人の医学生との活動から始まり、現在はアジアの十三カ国に四百人の会員がおり日本では二百人が参加している。

松山医師は「AMD Aの基本理念は相互支援、相互理解、相互発展。お金の支援でなく、物資による援助をすることだ」と強調。さらに、在日外国人医療プロジェクトはじめカンボジアやミャンマー、ブータン、フィリピン、ネパール、インドで展開している医療プロジェクトを紹介して支援を呼び掛けた。



AMD Aの活動状況を報告、より一層の支援を呼び掛けた松山医師